

下記の正解番号は解答予想として、また、合格予想点は問題の難易度から、いずれも当社が予想したものです。
試験結果等が確定したものではありませんので、ご注意ください。
また、本解答予想や試験内容に関するご質問は、対応いたしかねますので、予めご了承ください。

問題1	問題2	問題3	問題4	問題5	問題6	問題7	問題8	問題9	問題10
2	4	4	4	2	4	3	4	1	2
問題11	問題12	問題13	問題14	問題15	問題16	問題17	問題18	問題19	問題20
4	3	1	3	2	3	4	3	1	1
問題21	問題22	問題23	問題24	問題25	問題26	問題27	問題28	問題29	問題30
4	2	3	4	3	1	1	2	2	4
問題31	問題32	問題33	問題34	問題35	問題36	問題37	問題38	問題39	問題40
2	2	2	3	2	3	1	2	1	3
問題41	問題42	問題43	問題44	問題45	問題46	問題47	問題48	問題49	問題50
2	2	4	1	4	1	3	3	4	4

●合格予想点 32 点±1

<試験概要>

●全般的な難易度の印象

権利関係は例年より難しかった。法令上の制限及び税その他法令は例年並みであったと思われる。
宅建業法は、出題の順序が例年と比べて入れ替わっている問題がいくつか見受けられたが、内容的には例年並みであった。
合格点は、権利関係の問題が難しかったことを考慮して、前年より1点低い32点前後と考える。

●出題分野における今年の特徴的な出題

【問7】

平成20年度以来、毎年1問出題されている、判決文を読んで関連設問を解くという形式の民法問題であった。
今回は、平成9年11月13日の判例が題材になっているが、
この判例の内容を知らなくても、設問の判決文抜粋から容易に正答できる問題であった。

【問17】

建築基準法の単体規定からの個数問題であり、正答率はかなり低かったと思う。

【宅建業法】

「重要事項の説明」に関する問題が3問、「37条書面」に関する問題が3問と、例年より大幅に増えた。